

# クルリンとほしぞらさんぽ 11月号



## 秋の空、たのしみですね

今月は大きな天体イベントがあります。月食は見のがせないし、そして秋は流れ星を見るチャンスが大きくなるんですよ。流れ星を見たい人は絶対にほしぞらさんぽしないとね。

## 皆既月食

11月8日（火）に、皆既月食（地球のかげに月が全部入ってしまうことを皆既かいきと言います）があります。

今回の月食の欠け始めは18時09分、皆既月食の始まりは19時17分、皆既月食が終わって月のはじっこがまた輝き始めるのが20時42分、月食が完全に終わるのは21時49分だということです。

今回の皆既月食はなんと1時間半近くも続くので、ゆっくりたっぷりと楽しめますね。月の色が変わっていく様子や周りの空が次第に暗くなる様子にも注目しましょう。スマホで写真が撮れるかもしれませんが、どこまで写せるか、スマホを固定する三脚を用意して挑戦してみてもはどうでしょうか。

次回の皆既月食は3年後の2025年9月8日まで待たなければなりません。今回はどうしても見逃せませんね。晴れますように。

東の空が開けていて、車などの危険がない場所で、久しぶりの月食を楽しみましょう。

## 流星群がありますよ

毎年11月になると流れ星が見られるチャンスが増えてきます。11月の上旬にはおうし座流星群があって、何日も続けて流れるので見つかるかもしれませんが、あいにく月が明るいのです。

11月17日の夜から夜明けにかけては、しし座流星群の極大との予報があります。その日が極大日とされていますが、しし座流星群はその予報日だけでなく前後の夜に、だらだらと流れることが多く見られます。晴れたらほしぞらさんぽして試してみましょうね。

流れ星を見るてなんだかすごく得をしたような感じになりますね。見つけたければ、なるべく広い空を見はっていただければなりませんよ。オリオ

ン座流星群とかしし座流星群とかふたご座流星群とか、星座の名前が付いていますがその星座の方向を見ていればいいのではなくて、どこに流れるかは全く予想できないのです。全天を見渡せるように姿勢を工夫するといいかもね。

## 秋の星座 アンドロメダ座

今月はアンドロメダ座を紹介しましょう。北東方向の中天を見上げると、カシオペヤ座の右側にアンドロメダ座が見えています。次ページの図を参考にして、アンドロメダ座を確認しましょう。

頭上にはペガサスの四辺形がありますが、ペガサスの四辺形を作っている4つの星の内の一つはアンドロメダ座と重なっていますから、まず頭上を見上げて、ペガサスの四辺形を見つけて、そこから星をたどってみましょう。

下の秋の星空の写真を見てください。これは子ども科学館のたぬき先生が山中湖近くでひと月ほど前に撮影したのですが、M31アンドロメダ銀河とM33が写っています。

メシエ番号がM31のアンドロメダ銀河は、およそ250万光年の遠くにあって、4000億個もの星が



集まっている銀河だといわれています。宇宙に無数にある銀河の中ではいちばん近くにあるので、双眼鏡でもぼんやりと見ることができる数少ないの銀河の一つです。場所がわかれば、小さい双眼鏡でもぼんやりと見えるはずですが。右の図を参考にして探してみましょう。

す。火星の場所は下の国立天文台の図を見てね。

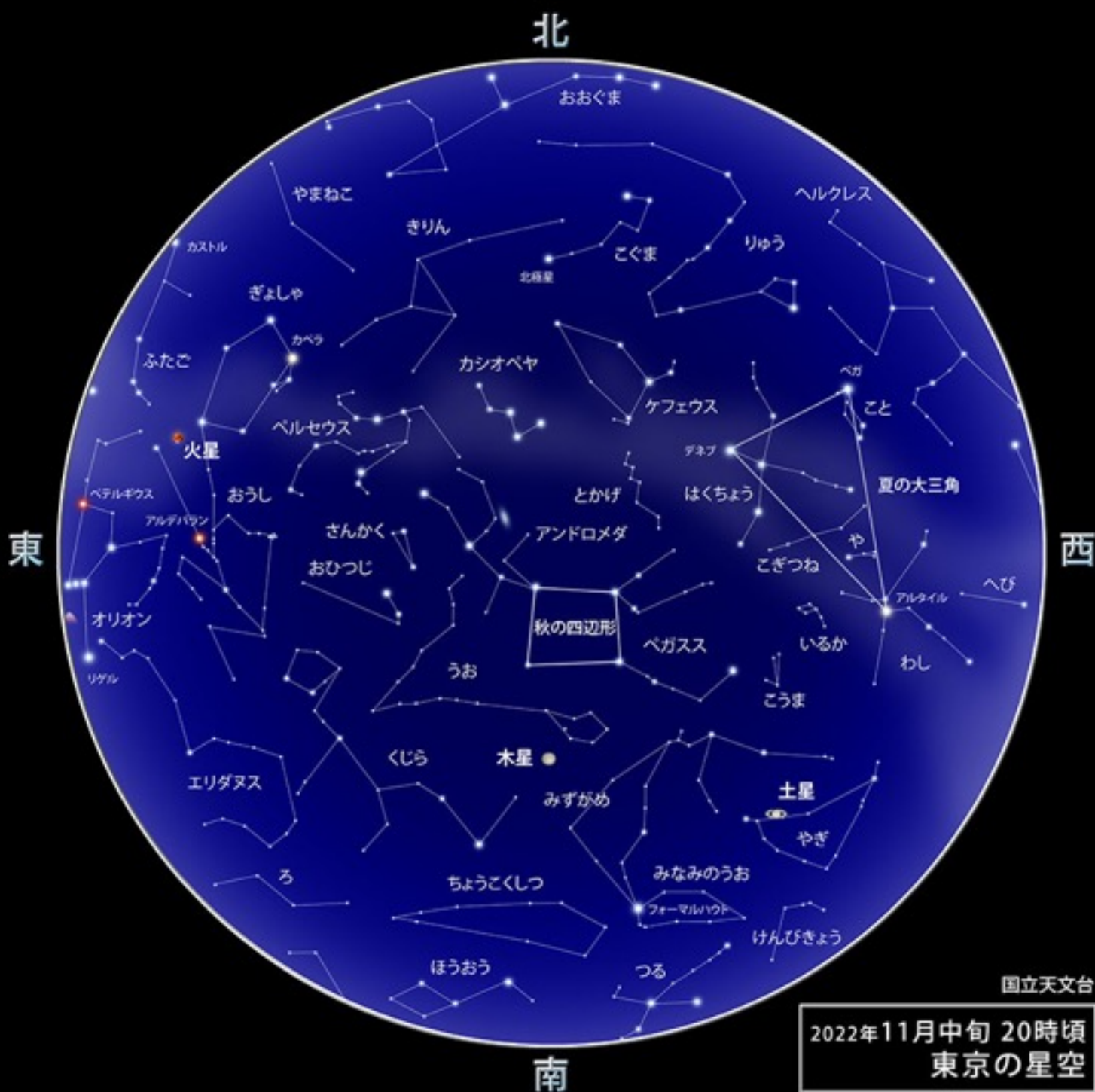


300ミリレンズで写したアンドロメダ座の銀河



### 3つの惑星を見ることができます

よいのうちには南東の空に明るい木星が輝いていて、その右側（西側）こぶし4つ分ぐらいにある1等星ぐらいの星は土星です。10時頃までがんばっていると、火星が東の空に赤く見えてきま



国立天文台

2022年11月中旬 20時頃  
東京の星空